

平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	団塊世代の営農支援講座の開発推進事業		
法人名	社団法人 日本国民高等学校協会		
学校名 ((2) のみ)	日本農業実践学園		
代表者	理事長 鈴木 昭雄	担当者 連絡先	大西俊英 029-259-2002
<p>1. 事業の概要</p> <p>団塊世代が定年後田舎に移り住み、農業を軸とした半自給的な生活を営めるための、知識・技術習得を目的とする講座を実施できるソフト・ハードの開発を狙う。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>従来から本学園が所有している農業技術習得のためのノウハウ・施設をベースとして、さらにそれ以外の講座を組み入れてカリキュラムを構築し、実証講座の実施までを行った。内容的にも当初の目的を十分に満たすものができたと考える。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>1. 作物栽培と農産加工などを組み合わせることにより、広い視野での農村に対する理解を深めるとともに、受講生の幅広いニーズにも対応することができるようなプログラム構築が可能になった。 2. 一泊二日が5回という従来になかった時間単位での研修実施についてのノウハウを蓄積することができた。また、このような通い受講のスタイルで4ヶ月に渡って内容の継続性を持たせながら実施することも可能であると立証できた。</p> <p>③今後の活用</p> <p>今回の成果をベースとして、改良を加えながら継続して同等の研修を行う方向で検討。また、今回の4ヶ月プログラムから発展させて、通年カリキュラムも同様に検討。</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>今回は全員共通のプログラムで実施したが、参加者の意向により選択性を持たせることも検討の余地がある。また、限られた時間の中でダイジェスト的な研修になった部分も散見されたので、改善が必要。</p>			

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

実証講座実施中に参加者を対象にヒアリングを実施したが、ニーズに関しては団塊世代が実際に退職するのは3年後ぐらいになるのではないかとの見方があった。定年には達しているが、準社員などの形で職務を継続しているケースが多くみられるようである。また、都市部には潜在的にニーズがあるにもかかわらず、告知不足のため実証講座実施の事実が伝わっていないとの意見もあった。

②カリキュラムの開発

テーマ: 田舎で半自給的な生活を送るために必要な知識・技術を、農業を軸として習得していくプログラムの開発

対象: 田舎暮らしに興味があり、農作業をする基礎体力のある方

開発内容: 農業技術指導を軸に、農産加工などを加えて研修プログラムを構築。体験のための現物と、配布資料を作成した。

③実証講座

期間: 平成19年11月10日より平成20年3月9日まで

受講者数: のべ117名

場所: 日本農業実践学園

④その他

当事業においては体験型学習が最適と考え、現場での体験を主体とした研修プログラムを構築した。

実証講座 内容

基礎コース(土日、全5回)

	日付	参加者数	内容
第一回	11月10日	9	栽培全般の説明、農業資材の使い方、収穫作業、調理(野菜中華スープ、野菜グラタン)、自然観察・学校案内、花炭づくり、そば打ち、農具の使い方・手入れの仕方、畝立て、種まき
	11月17日	13	
第二回	12月15日	12	ハウス建て・説明・骨組み・ビニール張り、調理(ロールキャベツ)、堆肥づくり(説明、実践)、収穫作業、ソーセージづくり、味噌・納豆づくり
	12月22日	8	
第三回	1月12日	5	ハウス播種作業、酪農見学、漬物・コンニャク・甘酒作り(講義と実践)、落ち葉集め、パン・ジャム作り、収穫作業、小型農業機械
	1月26日	12	
第四回	2月9日	9	炭焼き、収穫作業(ネギ)、豆腐づくり、調理(豆腐料理・おから料理)、春大根トンネル種まき、餅つき、講義(田舎暮らしとモノづくり)
	2月23日	11	
第五回	3月1日	15	燻製づくり、温床作り、ジャガイモ植え付け、調理(ちらし寿司)、屋外での調理(焚き火)、講義(営農関係)、おやき・肉まんづくり、炭を使ったバーベキュー、収穫体験(ビニールハウス)
	3月8日	23	
	合計	117	

実践コース(一ヶ月コース)

実践コースの実施にあたっては、応募者1名が2/4より入校予定であったが都合によりキャンセルとなり、参加者なしで中止となった。応募者が少なかった原因としては、一ヶ月という長期の研修が、参加者のスケジュール調整を困難にしたためと思われる。

アンケート

実証講座の際に、受講者に対してアンケートを実施した。各研修項目を5段階で評価してもらい集計。結果は、総回答601票のうち平均以下の評価は4票のみとなり、高い評価を得た。